

2025年6月20日

令和 6 年度政務活動費に係る収支報告書

青森県議会議長 丸井 裕 殿

青森県議会議員 吉俣 洋

1 収 入

(政務活動費交付額) 3,720,000 円

2 支 出

経 費	金額(円)	主 な 内 容
調 査 研 究 費	1,917,342	日本共産党会派共通経費、ガソリン代
研 修 費	0	
広 聴 広 報 費	1,682,061	よしまた洋活動報告印刷代、ホームページ更新代、画像素材年間使用料
要請陳情等活動費	71,830	ガソリン代、JR切符代、宿泊費
会 議 費	1,480	ガソリン代
資 料 作 成 費	0	
資 料 購 入 費	82,730	図書購入費
事 務 所 費	0	
事 務 費	0	
人 件 費	0	
合 計	3,755,443	

3 差 引

(収入額－支出額) △ 35,443 円

費目ごとの^{あん}按分率一覧

議員名

吉俣 洋

1 事務費

(1) 固定電話・ファクシミリ(番号ごとに記載)

☐ 電話 ☐ ファクシミリ (番号 - -)	☐ 自宅設置	☐ 事務所設置
☐ 政務活動以外にも使用 ☐ 政務活動専用	☐ 後援会活動 ☐ 政党活動 ☐ 私的活動	☐ 実態による場合 ☐ 通話時間 ☐ その他 [] ☐ 実態によることが著しく困難な場合
		按分率

(2) ネット回線使用料・プロバイダ料

契約先 ()	☐ 自宅設置	☐ 事務所設置
☐ 政務活動以外にも使用 ☐ 政務活動専用	☐ 後援会活動 ☐ 政党活動 ☐ 私的活動	☐ 実態による場合 ☐ 接続時間 ☐ その他 [] ☐ 実態によることが著しく困難な場合
		按分率

(3) 携帯電話 (番号 - -)

☐ 政務活動以外にも使用 ☐ 政務活動専用	☐ 後援会活動 ☐ 政党活動 ☐ 私的活動	☐ 実態による場合 ☐ 通話時間 ☐ その他 [] ☐ 実態によることが著しく困難な場合
		按分率

(4) 情報端末(タブレット等)

☐ 政務活動以外にも使用 ☐ 政務活動専用	☐ 後援会活動 ☐ 政党活動 ☐ 私的活動	☐ 実態による場合 ☐ 通信時間 ☐ その他 [] ☐ 実態によることが著しく困難な場合
		按分率

(5) 消耗品、備品等

☐ 政務活動以外にも使用 ☐ 政務活動専用	☐ 後援会活動 ☐ 政党活動 ☐ 私的活動	☐ 実態による場合 ☐ 使用頻度 ☐ その他 [] ☐ 実態によることが著しく困難な場合
		按分率

2 広聴広報費

(1) 広報紙の作成、発行等に要する経費

☒ 政務活動以外の部分を含む ☐ 政務活動のみ	☐ 後援会活動 ☒ 政党活動	☒ 紙面割合による場合 ☐ 紙面割合によることが著しく困難な場合
		按分率

(2) ホームページの作成等に要する経費

☒ 政務活動以外の部分を含む ☐ 政務活動のみ	☐ 後援会活動 ☒ 政党活動	☐ 面積割合による場合 ☒ 面積割合によることが著しく困難な場合
		按分率 1/2

支 出 証 明 書

NO. 1

経 費		調査研究費				
整理 番号	支出年月日	支出額	支出先	品 名	事業名、使途及び内容	備考
19	06. 07. 18	1,120	0	ガソリン代	駒込ダム周辺環境について 06. 07. 18 青森市駒込深沢 現地調査	56km × 20円
24	06. 08. 08	2,680	0	ガソリン代	奥入瀬溪流の調査と民医連 06. 08. 08 十和田市奥瀬、 看護委員会との懇談 青森市浪岡	134km × 20円
27	06. 09. 08	2,840	0	ガソリン代	三沢航空祭にて三沢基地視 06. 09. 08 三沢市 察	142km × 20円
29	06. 09. 11	2,960	0	ガソリン代	医療的ケア児支援の問題に 06. 09. 11 十和田市西十二 ついて調査 番町、六戸町	148km × 20円
44	06. 11. 09	2,560	0	ガソリン代	令和6年度青森県防災訓練 06. 11. 09 六ヶ所村倉内笹 を視察 崎	20円 × 128km
57	07. 02. 03	3,640	0	ガソリン代	自立援助ホーム及び青森県 07. 02. 03 八戸市根城、八 立八戸盲学校・聾学校を視察 戸市柏崎	20円 × 182km
計		15,800				

上記のとおり相違ないことを証明します。

青森県議会議員

吉俣 洋

領収書等の写し集計表

経 費		調査研究費			
整理番号	支出年月日	支出額	支出先	品名	備考
4	06. 04. 19	150,000	日本共産党会派	4月分日本共産党会派共通経費	
6	06. 05. 21	140,000	日本共産党会派	5月分日本共産党会派共通経費	
8	06. 05. 23	12,800	プラザホテルむつ	宿泊代	朝食代含まず
9	06. 05. 23	2,220	JR東日本	JR切符代	下北駅～青森駅
15	06. 06. 20	110,000	日本共産党会派	6月分日本共産党会派共通経費	
17	06. 07. 10	290,000	日本共産党会派	7月分日本共産党会派共通経費	
25	06. 08. 21	140,000	日本共産党会派	8月分日本共産党会派共通経費	
30	06. 09. 20	120,000	日本共産党会派	9月分日本共産党会派共通経費	
32	06. 10. 21	120,000	日本共産党会派	10月分日本共産党会派共通経費	
39	06. 09. 21	9,460	株式会社ニューサンピア敦賀	宿泊代	
40	06. 09. 22	1,470	敦賀第一交通(株)	タクシー代	
43	06. 11. 07	44,900	楽天グループ株式会社	ツアー料金	
45	06. 11. 09	290	NEXCO東日本	通行料金	青森中央IC～青森東IC
46	06. 11. 09	770	NEXCO東日本	通行料金	みちのく有料道路利用
47	06. 11. 20	180,000	日本共産党会派	11月分日本共産党会派共通経費	
51	06. 12. 20	190,000	日本共産党会派	12月分日本共産党会派共通経費	
55	07. 01. 20	210,000	日本共産党会派	1月分日本共産党会派共通経費	
58	07. 02. 03	420	NEXCO東日本	通行料金	青森中央IC～青森東IC
59	07. 02. 03	770	NEXCO東日本	通行料金	みちのく有料道路利用
60	07. 02. 03	220	青森県道路公社	通行料金	みちのく第二有料道路利用
61	07. 02. 03	220	青森県道路公社	通行料金	みちのく第二有料道路利用
62	07. 02. 03	160	NEXCO東日本	通行料金	八戸北IC～下田IC
63	07. 02. 03	770	NEXCO東日本	通行料金	みちのく有料道路利用
64	07. 02. 03	420	NEXCO東日本	通行料金	青森東IC～青森中央IC
68	07. 02. 21	100,000	日本共産党会派	2月分日本共産党会派共通経費	
合 計		1,824,890			

領収書等の写し集計表

経 費		調査研究費			
整理番号	支出年月日	支出額	支出先	品名	備考
76	06. 08. 19	29,530	東日本旅客鉄道株式会社	JR切符代	新青森駅⇒金沢駅
77	06. 08. 27	3,000	金沢マンテンホテル駅前	駐車料金	
78	06. 08. 23	26,160	株式会社日本旅行東北	宿泊代	
79	06. 08. 30	2,660	新青森駅西口駐車場	駐車料金	
80	06. 08. 19	28,160	東日本旅客鉄道株式会社	JR切符代	金沢駅⇒新青森駅
81	07. 03. 31	-14,041	日本共産党会派	会派共通経費精算	
合 計		75,469			

吉俣 洋

[illegible]

吉俣 洋

事業名	能登半島地震の被災状況・災害対策調査及びボランティア活動												
経費	調査研究費												
実施年月日	06. 08. 27～06. 08. 30												
場所	石川県羽咋市、珠洲市、輪島市												
同行議員	安藤晴美議員、田端深雪議員												
目的	2024年1月1日に発生した能登半島地震は、M7.6、最大震度7という大きな揺れを引き起こし、能登半島全体に大きな被害を与えた。半島であることに加え半島の入口に原子力施設が存在する場所で起きた地震についてボランティア活動を通じて被災者の要望聞き取りや意見交換、現地調査を行い、本県の災害対策の参考とする。												
日程	* 別途報告書提示												
訪問内容及先び等	* 別途報告書提示												
経費の内訳等	支出内容	政務活動費 充当額(円)	主な品名	整理番号									
	交通費	57,690	JR切符代	76	80								
	宿泊費	26,160	宿泊代	78									
	受講料												
	その他	5,660	駐車料金	77	79								
合計額		89,510											

2024 年 8 月 27 日～30 日：

能登半島地震の被災状況・災害対策調査およびボランティア活動

目的

- ・2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震は、M7.6、最大震度 7 という大きな揺れを引き起こし、能登半島全体に大きな被害を与えた。半島であることに加え半島の入り口に原子力施設が存在する場所で起きた地震について、ボランティア活動を通じて被災者の要望聞き取りや意見交換、現地調査を行い、本県の災害対策の参考とする。

日程

8 月 27 日

自宅→（自家用車）→新青森駅→（JR）→金沢駅→石川県金沢市内宿泊

8 月 28 日

石川県金沢市→（レンタカー）→石川県羽咋市→（レンタカー）→石川県珠洲市→（レンタカー）→石川県金沢市（市内で宿泊）

8 月 29 日

石川県金沢市→（レンタカー）→石川県輪島市→（レンタカー）→石川県金沢市（市内で宿泊）

8 月 30 日

石川県金沢市→（JR）→新青森駅→（自家用車）→自宅

内容

震災後、被災者の生活支援や要望活動にとりくんでいる能登半島地震被災者共同支援センターの黒梅明事務局長から、震災の全体像についてレクチャーを受けた。半島東側（内海）は地盤が沈降し津波に襲われたのに対し、半島西側（外海）は地盤が隆起し津波の被害は免れたこと、被災者は仮設住宅に入って落ち着きを取り戻しているが、その仮設住宅が 2 年の期限があるため、その後の生活への不安がひろがり「能登は捨てられた」という思いを持ちながら生活していること、などが語られた。

半島各地で道路が割れたままになっており、特に、珠洲市内や輪島市内ではマンホールふたの隆起もそのままになっていた。倒壊した住宅、折れた電柱、曲がった電線など、被災後半年とは思えない状況を目の当たりにし、半島地震の傷跡を実感した。

珠洲市と輪島市では、支援物資も届けながら、仮設住宅をまわり、要望を聞き

てきた。リアルな津波の状況などを聞くとともに、発災直後の仮設住宅の劣悪さ（過密な状況は女性への配慮が足りない運用など）についての声が寄せられた。これも本県の災害対応において改善が図られるべき課題だと感じた。

地震により4メートルの隆起が起こり、海底が露出している輪島市門前町の鹿磯漁港周辺を視察した。地盤そのものが動くという事態を目の当たりにし、珠洲市が原発立地を断念した経緯を合わせて考えると、地盤の隆起・沈降が起こり得る海岸線に立地する原子力施設の安全性について、新たな視点をもって対応することが必要であると感じた。

半島防災という点でも、被災者の生活支援のあり方という点でも、原子力施設の安全性という点でも、本県行政にいかしていきたい。

吉俣 洋

事業名	若狭湾の原発施設視察及び全国集会への参加												
経費	調査研究費												
実施年月日	06. 09. 20～06. 09. 22												
場所	福井県敦賀市												
同行議員													
目的	能登半島地震の際、本来なら原子力災害の際には屋内退避が前提とされているはずの志賀原発周辺で住宅が倒壊し、屋内退避が不可能となった。また、避難が必要なはずの地域で道路が寸断されるという事態が起きた。こうした経験を踏まえて原子力政策と避難計画を見直すことは、全国の立地自治体で問われていると考える。その原発は建設コストが上昇するもとの「苦肉の策」として「老朽化原発の運転延長」が推し進められているが、それが安全面にどのような影響をもたらすのかについて慎重な議論が求められているはずである。また老朽化原発の規制をめぐる国・事業者には、「安全神話」から決別したはずの原子力行政がどうなっているのか、原発ありきで安全性を軽視する姿勢となっていないかどうか試されていると考える。そこで「原発問題住民運動連絡センター」が主催する若狭湾の原発視察とそれをふまえた、老朽化原発の技術的課題と能登半島地震が原発に及ぼす警鐘という二つのテーマで開催される講演会に参加し、本県の原発・核燃サイクル政策の参考としたい。												
日程	* 別途報告書提示												
訪問先及び内容等	* 別途報告書提示												
経費の内訳等	支出内容	政務活動費 充当額(円)	主な品名	整理番号									
	交通費	46,370	ツアー料金	40	43								
	宿泊費	9,460	宿泊代	39									
	受講料												
	その他												
合計額	55,830												

2024 年 9 月 21 日～22 日：

若狭湾の原発施設の視察と全国集会への参加について

目的

・能登半島地震の際、本来なら原子力災害の際には屋内退避が前提とされているはずの志賀原発周辺で住宅が倒壊し、屋内退避が不可能となった。また、避難が必要なはずの地域で道路が寸断されるという事態が起きた。こうした経験を踏まえて原子力政策と避難計画を見直すことは、全国の立地自治体で問われていると考える。その原発は、建設コストが上昇するもとの「苦肉の策」として「老朽化原発の運転延長」が推し進められているが、それが安全面にどのような影響をもたらすのかについて慎重な議論が求められているはずである。また、老朽化原発の規制をめぐる国・事業者には、「安全神話」から決別したはずの原子力行政がどうなっているのか、原発ありきで安全性を軽視する姿勢となっていないかどうか試されていると考える。そこで、「原発問題住民運動全国連絡センター」が主催する若狭湾の原発視察と、それをふまえた、老朽化原発の技術的課題と能登半島地震が原発に及ぼす警鐘という二つのテーマで開催される講演会に参加し、本県の原発・核燃サイクル政策の参考としたい。

日程

9 月 21 日

福井県敦賀駅→若狭湾内の原発視察→敦賀市内で宿泊

9 月 22 日

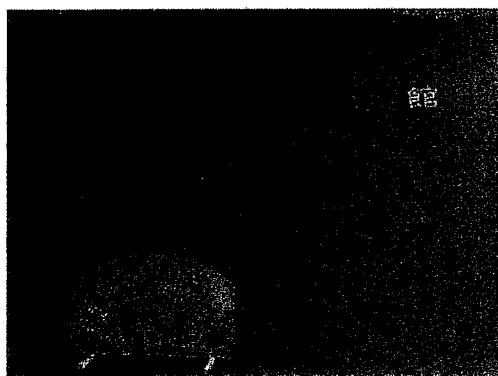
敦賀市内で講演会に参加→帰宅

内容

現地見学では、敦賀原発と高速増殖炉「もんじゅ」、美浜原発を見学した。それぞれ、沸騰水型、高速増殖炉、加圧水型というタイプの違った原発で、それが車で 1 時間もかからないような距離に密接していること自体に驚いた。特にもんじゅについては、近接する住家との距離が極めて近く、いまは事故後に廃止措

置が決まっているとはいえ、「安全神話」のもとでは事故を想定しない原子力施設の立地が平然と行われてきたことの重大さをあらためて認識した（写真右：もんじゅの目の前に海がひろがり、そこが漁港となっていた）。

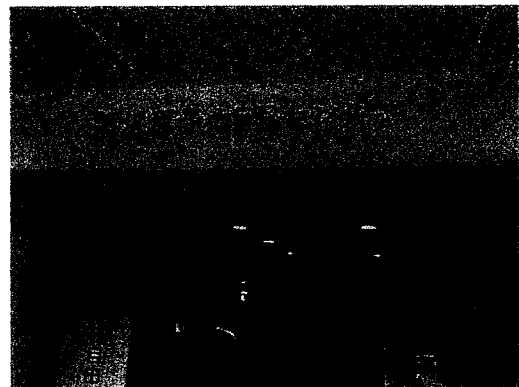
敦賀原発（写真下）は2基立地しているが、1号機は廃止措置中で、2号機は原



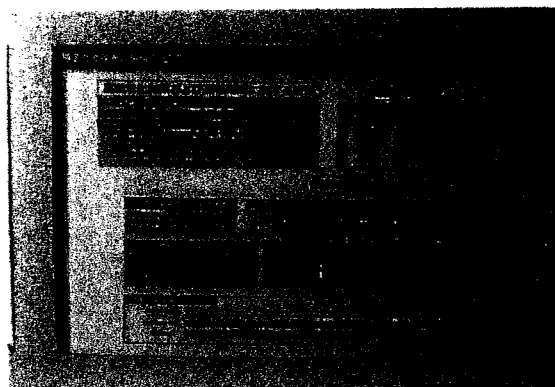
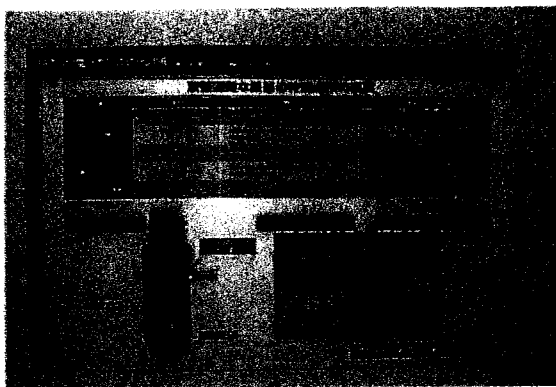
子炉真下の活断層の活動性が問題となっており、廃炉の可能性が高い（その後、原子力規制委員会が適合性審査で不合格を出した）。この原発を動かすのは日本原子力発電（日本原電）だが、同社は、本県のむつ中間貯蔵施設に使用済み核燃料を搬入することになっている。しかし同社が運転するはずの原発は、敦賀原発以外には東海原発（廃止措置中）、東海第二原発（営業開始が1978年で老朽化）という状況にある。仮に

同社の使用済み核燃料を本県に運び込んだとしても、それを再処理して取り出したプルトニウムなどを使う原発は同社に存在しない。むつ中間貯蔵施設は動かすべきではないことをあらためて感じてきた。

美浜原発（写真右）は1号機と2号機が廃止措置中である一方で、1976年に営業運転



がはじまった3号機が2021年6月に40年超の原発として初めて運転再開を行った（なお視察後の2024年10月、配管からの海水漏れで運転停止となる事態も起きている）。関西電力の関係者からは、同原発の成り立ちと廃止措置についてのレクチャーを受けた。40年超の原発ということもあってか、パネル展示のなかには高経年化対策を強調するものも含まれていた（次ページ写真）。



翌日の講演会では、前日の現地見学をふまえて、元東芝原発設計技術者の後藤政志氏の記念講演「老朽原発の危険を語る」と新潟大学名誉教授の立石雅昭氏の特別報告「能登半島地震の原発への警告」を聞いてきた。

後藤氏は、福島第一原発の設計にも関わった経緯を述べ、「事故炉の設計に関わった人間として、原発の何が危ないかを語れるはずだ」という社会的使命から講演をはじめた。加圧型と沸騰水型のそれぞれでどういう事故・故障が起きたかを列挙しつつ、「沸騰水型炉の代表例としてひび割れ」「加圧水型炉の代表例として蒸気発生器の損傷」を紹介しつつ、高経年化にともなう危険性をいくつか述べた。印象に残った点をいうと、原発の物量と比較して特別点検はごく一部にとどまり、老朽原発の検査をするといってもどれだけみているんだ、という疑問があること。事業者による点検補修の限界も論じられた。また、一般的には機械の故障の発生率は経過時間が経つほど高くなり(バスタブ曲線)、原発も高経年化に伴う物理的・化学的劣化は避けられないこと、そもそも設計自体が長期使用を前提としておらず、60年もの長期劣化には実証データがないことなどが語られた。

立石氏は、活断層の連動性についての評価から講演を開始した。能登半島地震でいくつかの断層が連動して動いたことによって、「『(断層が)5キロ離れていれば連動しない』というルールが破綻した」と強調。能登半島地震の解析から分かる断層についての解説を行った。また、地震による隆起・地殻変動について、地震波の伝搬・増幅過程など、地震後に得られたデータに基づいた見解が述べられた。

現地視察と記念講演・特別報告の全体を通じ、原発の技術特性を踏まえた問題提起や地震のデータ解析から得られる教訓を、原子力関連施設をもつ本県の施策に反映させていく必要性を強く感じ、そのための努力を行っていきたい。

政務活動実績報告書

議員名 吉俣 洋

経 費	調査研究費			
年 月 日	場 所	訪 問 先 等	概 要	整理番号
06. 04. 19	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(4月分)	4
06. 05. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(5月分)	6
06. 06. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(6月分)	15
06. 07. 10	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(7月分)	17
06. 08. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(8月分)	25
06. 09. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(9月分)	30
06. 10. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(10月分)	32
06. 11. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(11月分)	47
06. 12. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(12月分)	51
07. 01. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(1月分)	55
07. 02. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品等の購入等に要する経費に充てるための共通経費(2月分)	68

(その2)県内における宿泊を伴わない政務活動用

議員名 吉侯 洋

[illegible]

領収書等の写し集計表

経 費	広聴広報費				
整理番号	支出年月日	支出額	支出先	品名	備考
5	06. 04. 24	17,658	ACワークス(株)	画像素材年間利用料	
10	06. 05. 28	8,782	日本共産党東地区委員会	よしまた洋活動報告印刷代	請求書添付
13	06. 06. 19	10,212	日本共産党東地区委員会	よしまた洋活動報告印刷代	請求書添付
20	06. 07. 19	2,351	津田大地	ドメイン更新料・サーバー利用料	振込手数料330円含む
21	06. 07. 19	12,100	津田大地	ホームページ更新代金	
22	06. 07. 19	417,900	(有)印刷屋のとざわ	活動報告印刷代	105,533部×3.65円 振込手数料550円を含む 請求書添付
23	06. 07. 30	377,880	ワイエス(株)ミッド事業部	チラシ配布料	105,533部×3.30円 振込手数料550円を含む 請求書添付
26	06. 08. 29	8,782	日本共産党東地区委員会	よしまた洋活動報告印刷代	請求書添付
33	06. 04. 24	6,480	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
34	06. 05. 24	6,480	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
36	06. 06. 24	6,480	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
37	06. 07. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
38	06. 08. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
41	06. 09. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
42	06. 10. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
50	06. 12. 04	9,980	日本共産党東地区委員会	よしまた洋活動報告印刷代	請求書添付
52	06. 11. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
53	06. 12. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
56	07. 01. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
69	07. 02. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
70	07. 03. 24	7,780	Adobe Systems Software Ireland Ltd	ソフトウェア月額費用	
71	07. 03. 24	715,550	株式会社東奥日報社	広告料	請求書添付、振込手数料550円を含む
72	07. 03. 24	660	青森県男女参画センター	施設使用料	アピオ青森小研修室3
73	07. 03. 28	10,746	日本共産党東地区委員会	よしまた洋活動報告印刷代	請求書添付
合 計		1,682,061			

第3号様式(第2条関係)

(その2)県内における宿泊を伴わない政務活動用

政務活動実績報告書

議員名 吉俣 洋

経 費	広聴広報費			
年 月 日	場 所	訪 問 先 等	概 要	整理番号
06. 04. 24	—	—	活動報告作成及び県議団だより作成の為に画像素材を使用	5
06. 05. 28	—	—	よしまた洋活動報告5月号を2,200部印刷し、配布した	10
06. 06. 19	—	—	よしまた洋活動報告6月号を2,600部印刷し、配布した	13
06. 07. 19	—	—	ホームページ作成のためのレンタルサーバー	20
06. 07. 19	—	—	自身のホームページを更新した	21
06. 07. 19	—	—	よしまた洋活動報告第34号を105,533部印刷し、配布した	22,23
06. 08. 29	—	—	よしまた洋活動報告8月号を2,200部印刷し、配布した	26
06. 04. 24	—	—	活動報告及び県議団だより作成のためのソフトウェアを使用	33,34,36,37 38,41,42,52 53,56,69,70
06. 12. 04	—	—	よしまた洋活動報告11月号を2,500部印刷し、配布した	50
07. 03. 24	—	—	9月議会報告を東奥日報2月19日16面に掲載。	71
07. 03. 29	青森市中央	青森市民	アピオあおもりにて青森市民に県議会報告を行った	72
07. 03. 28	—	—	よしまた洋活動報告2月号を2,500部印刷し、配布した	73

支出証明書

経 費		要請陳情等活動費					NO. 1	
整理 番号	支出年月日	支出額	支出先	品 名	事業名、使途及び内容		備考	
18	06. 07. 16	3,000	0	ガソリン代	在日米軍三沢基地司令官宛に申し入れ及びPFASが検出されたため池を視察 06. 07. 16 三沢市平畑、三沢淋代平		150km×20円	

上記のとおり相違ないことを証明します。

青森県議会議員

吉俣 洋

議員名 吉俣 洋

事業名	クロマグロ知事管理漁獲枠の大幅増を求める要望書提出と懇談及びむつ中間貯蔵施設に搬入される金属キ												
経費	要請陳情等活動費												
実施年月日	06. 08. 06～06. 08. 07												
場所	東京都千代田区												
同行議員													
目的	・2018年から始まったクロマグロの資源管理は、大臣管理枠と知事管理枠の配分割合が変わることなく続けられてきたが、その間、沿岸つり・はえなわ漁業者からは配分枠が極めて小さく、クロマグロが目の前を泳いでいても漁獲することができない状況に追い込まれてきた。その中で7月に釧路市で開催された中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)北小委員会等において、太平洋クロマグロの親魚資源量が増加したことをふまえ、2025年から漁獲量が拡大することが合意された。それに伴い、拡大する漁獲枠のなかで知事管理枠の設定を厚くし、沿岸つり・はえなわ漁業者が安心して操業できるように求める声が広がっている。その趣旨での全国沿岸漁民連絡協議会(JCFU)による大臣要請後の水産庁担当者との懇談の機会に参加し、本県のクロマグロ漁獲枠のあり方について調査・研究を行うこととした ・むつ中間貯蔵施設に搬入される予定の金属キャスクの安全性にかかわって、キャスクの製造が2010年にまでさかのぼり今後50年の貯蔵が安全に行われるのかどうか疑問があること、製造を請け負った日本製鋼所JSWでは、データ改ざん・ねつ造・虚偽記載等の不正が内部告発によって明らかになり、むつ中間貯蔵施設で使用するキャスクへの疑問が生じたことを受け、「核のゴミから未来を守る青森県民の会」による原子力規制庁との懇談に参加し、県内に運び込まれる金属キャスクの安全性についての妥当性と中間貯蔵施設そのものの安全性について検証し、中間貯蔵施設についての論戦の参考とする。												
日程	* 別途報告書提示												
訪問内容及先び等	* 別途報告書提示												
経費の内訳等の	支出内容	政務活動費 充当額(円)	主な品名	整 理 番 号									
	交 通 費	45,600	JR切符代、宿泊代	75									
	宿 泊 費												
	受 講 料												
	そ の 他												
合 計	額	45,600											

2024 年 8 月 6 日：

クロマグロ知事管理漁獲枠の大幅増を求める要望書提出と懇談について

目的

・2018 年からはじまったクロマグロの資源管理は、大臣管理枠と知事管理枠の配分割合が変わることなく続けられてきたが、その間、沿岸つり・はえなわ漁業者からは、配分枠が極めて小さく、クロマグロが目の前を泳いでいても漁獲することができない状況に追い込まれてきた。そのなかで7月に釧路市で開催された中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）北小委員会等において、太平洋クロマグロの親魚資源量が増加したことをふまえ、2025 年から漁獲枠が拡大することが合意された。それにともない、拡大する漁獲枠のなかで知事管理枠の設定を厚くし、沿岸つり・はえなわ漁業者が安心して操業できるように求める声がひろがっている。その趣旨での全国沿岸漁民連絡協議会（JCFU）による大臣要請後の水産庁担当者との懇談の機会に参加し本県のクロマグロ漁獲枠のあり方について調査・研究を行うこととしたい。

日程

8 月 6 日

自宅→（自家用車）→新青森駅→（新幹線）→東京都 衆議院第2議員会館
→翌日の政務活動のため東京泊

内容

本県のマグロ漁師を含め、多くの漁業者が参加するなかで水産庁担当者との懇談が行われた。クロマグロの資源が回復するにも関わらず、漁獲枠が狭められているがゆえにとることができず、悔しい思いをしてきたことなどを肌で感じた。漁獲枠が全体として増える機会に、知事管理枠の割合を増やし、沿岸漁業者の生活を守ることは、小規模家族経営を中心とする沿岸漁業を中心として資源管理を行う上でも大事な課題だと感じた。また水産庁の担当者も、漁業者から声を寄せてほしいということを述べており、本県からも沿岸漁民の立場にたった声のあげ方を探求する必要があると感じた。本県の沿岸漁業のあり方を考える議会質疑などに反映させていきたい。

2024年8月7日：

むつ中間貯蔵施設に搬入される金属キャスクの安全性に関する原子力規制庁との懇談（核のごみから未来を守る青森県民の会主催）について

目的

- ・むつ中間貯蔵施設に搬入される予定の金属キャスクの安全性にかかわって、キャスクの製造が2010年にまでさかのぼり今後50年の貯蔵が安全に行われるのかどうか疑問があること、製造を請け負った日本製鋼所JSWでは、データ改ざん・ねつ造・虚偽記載等の不正が内部告発によって明らかになり、むつ中間貯蔵施設で使用するキャスクへの疑問が生じたことを受け、「核のごみから未来を守る青森県民の会」による原子力規制庁との懇談に参加し、県内に運び込まれる金属キャスクの安全性についての妥当性と中間貯蔵施設そのものの安全性について検証し、中間貯蔵施設についての論戦の参考とする。

日程

8月7日

前日の政務活動終了後に東京泊→東京都 衆議院第2議員会館→（新幹線）→青森市→（自家用車）→自宅

内容

懇談のなかでは、「原子力規制庁がJSWの不正を知ったのはいつか？」「不正を行った会社が製造した容器の安全はどのように確認したのか？」などの疑問が出された。規制庁からは、不正については、2022年5月に報道などで知ったこと、安全性については検査のなかで確認したことなどの回答があった。

同社のキャスクはフランスでも使われているが、当局が独自調査を行って検査を継続させている同国と違い、日本では不正発覚後も安全確認は事業者任せとなっている。規制庁からは、「使用前検査でしっかり検査する」ということの報告が重ねてあった。むつ中間貯蔵施設稼働後も、キャスクそのものの安全性や使用前検査の実施状況も含め、安全性の確保について多角的な監視が必要であることが明らかになった。その立場で今後の議会質疑等に反映させていきたい。

吉俣 洋

事業名	東北農政局へ「今季の大雪対策についての申し入れ」を提出する												
経費	要請陳情等活動費												
実施年月日	07. 02. 13												
場所	宮城県仙台市青葉区												
同行議員	安藤晴美議員、田端深雪議員												
目的	年末年始にかけた大雪は、日常生活に大きな影響を及ぼすだけでなく、りんごの枝折れをはじめとする農業分野に大きな被害をもたらしている。農林水産省に対して実情を伝え、雪害被害対策の早期の対応を求めて要望することを目的とする												
日程	2月13日(木) 自宅～(自家用車)～青森市～(JR)～宮城県仙台市～(JR)～青森市～(自家用車)～自宅												
訪問内容及先び等	* 別途報告書提示												
経内費訳の等	支出内容	政務活動費 充当額(円)	主 な 品 名	整 理 番 号									
	交 通 費	22,210	JR切符代	65	66								
	宿 泊 費												
	受 講 料												
	そ の 他	1,020	駐車料金	67									
合 計 額		23,230											

2025 年 2 月 13 日：

仙台市の東北農政局にりんご雪害問題で申し入れ

目的

- ・ 年末年始にかけた大雪は、日常生活に大きな影響を及ぼすだけでなく、りんごの枝折れをはじめとする農業分野に大きな被害をもたらしている。農林水産省に対して実情を伝え、雪害被害対策の早期の対応を求めて要望することを目的とする。

日程

2 月 13 日

自宅→（自家用車）→新青森駅→（JR）→宮城県仙台市→（タクシー）→東北農政局→宮城県庁→（タクシー）→仙台駅→（JR）→新青森駅→（自家用車）→自宅

内容

農林水産省東北農政局の児玉史章企画調整室長に対して次の項目を要望した。
▶雪のため現状が困難になっているりんご園地の実態把握のため、農道の除雪や園地内の融雪への特段の支援を行うこと、▶被害の実態把握を早期に行うために県、市町村への人的、技術的支援を行うこと、▶農業用ハウスは153棟、うち全壊が59棟（10日現在）にのぼっているが、被災したハウスや資材の撤去を被災者の負担なく行うこと、▶枝割れしたりんごの木を補修するかすがいや、塗布材への補助を行うこと、▶被害果樹の改植に際しての未収益期間の補助について、要件を緩和し受けやすくすること。また、災害に強い栽培など改良技術導入のための技術的・経済的支援を行うこと、▶2022年豪雨災害など、連続して被災した生産者の金融支援、補助の上乗せなど検討すること。▶2021年と同等もしくはそれ以上のパッケージの対策を早期に示すこと。

児玉室長からは、現地の実情を踏まえてよく対応したいという基本的姿勢とともに、改植事業について早期の見通しを立てたとりくみが必要なこと、パッケージの対応については他省庁との関係もあり、県からも国全体への要請をしてほしいということ、などが語られた。

雪害の状況については、雪解け後に全容がわかると思う。その規模にふさわしい対応を求めるとともに、交渉のなかで語られた内容をふまえて、県としてもとりくめることを提起していきたい。

議員名 吉俣 洋

[illegible]

支 出 証 明 書

NO. 1

経 費		会議費				
整理 番号	支出年月日	支出額	支出先	品 名	事業名、使途及び内容	備考
35	06. 05. 26	1,480	0	ガソリン代	6年度岩木川総合水防演習 に参加 06. 05. 26 北津軽郡鶴田町 大字野木	20円×74km
計		1,480				

上記のとおり相違ないことを証明します。

青森県議会議員

吉俣 洋

(その2) 県内における宿泊を伴わない政務活動用

議員名 吉俣 洋

[illegible]

